

第6回丹後管内二級河川流域治水協議会を開催しました

流域治水の推進に向け宮川、男山川、三田川、真名井川、畑川、世屋川、波見川、犀川、朝妻川水系の流域治水プロジェクトを策定しました。また、昨年度までに策定済の大手川、福田川、川上谷川、野田川、竹野川、佐濃谷川、大雲川、神子川、大膳川、筒川、吉野川、宇川、新樋越川、木津川、栃谷川、久美谷川水系の流域治水プロジェクトについて、フォローアップを実施しました。

○開催概要

日時	令和5年11月30日（木） 15：30～16：30
開催形式	Web開催（Zoom）
議題	（1）流域治水プロジェクト新規策定について （2）流域治水プロジェクトフォローアップについて （3）今後の進め方について

○出席者と主な意見

（宮津市 今井副市長（代理出席））

ハード、ソフト両面の対策を総合的に実施することにより、市民の安心安全に大いに寄与できるため、各機関の取組事例について参考にさせていただきながら、より一層の防災減災対策に取り組んでいきたい。

（京丹後市 大久保国府事業推進室長（代理出席））

ハード整備の役割は非常に大きく、引き続き河川改修をお願いするとともに、本市では、ハザードマップやタイムラインを活用し、市民の更なる防災意識の向上及び防災対策に努め、安心安全なまちづくりに取り組んでいきたい。

（伊根町 上山副町長（代理出席））

近年は、今まで体験したことがないような豪雨がいつどこで降ってもおかしくない状況であるが、予想を超える事態になっても、被害を最小限に抑えるため、今後はさらに防災意識の向上に努めていきたい。

（与謝野町 井上副町長（代理出席））

今後ますます激甚化、頻発化する災害に対して、まずは自分事として捉えることが大切と再認識しているところ。被害軽減のために、ハード、ソフト一体となった防災対策に取り組んでいきたい。

（京都府丹後広域振興局地域連携・振興部 村上部長）

京都府では、人口当たりの防災士の数が一番少なく、今年から令和8年にかけて800人の防災士を養成しようとしているところ。防災士が自助共助の中心となって活躍することが理想であり、府市町一緒に取り組んでいきたい。

（京都府丹後広域振興局農林商工部 棕平部長）

ハード、ソフト両面で取り組みが行われていることは非常に評価できる。短時間に局所で大雨が降ることにより災害が起こるといった状況が多くなっており、今後は予測をどのように見極めていくかが大切である。

（京都府丹後広域振興局建設部 市原部長）

河川整備や浚渫等のハード対策について、引き続き着実に進めていく。森林整備や治山対策は、河川への土砂流出抑制にも繋がるため、今後も皆様と連携して進めていきたい。市町においては、浸水想定区域図を基にハザードマップの更新、また内容の工夫等をしていただき、感謝申し上げます。引き続き、気を引き締めてハード、ソフト両輪で取り組んでいきたい。

（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター近畿北陸整備局 松林局長）

針広混交林や育成複層林の造成に加え、流木災害防止の観点から販売可能な間伐木の搬出利用を図る等、流域治水に貢献できるよう計画的な森林整備を進めていきたい。

（京都府建設交通部 濱田部長）

ハード整備は非常に効果がある一方で、ソフト対策も備えておくことが大切。特にタイムラインの作成は非常に重要であり、建設交通部でも、タイムラインに資するように水位予測システムの精度確認をしているところ。各機関の取り組みは、洪水のピークをずらす効果が間違いなくあるため、着実に進めていただきたい。また、洪水の危険があるところには人を住まわせないようにする等、住まい方の工夫も必要である。



※京都府港湾局は欠席

協議会の様子

